

Stage IV 胃癌治療は、化学療法の進歩によりその成績は向上してきているが、いまだ予後不良である。また、化学療法の奏効例に対し外科的介入 conversion surgery が行われる機会も増えてきている。conversion surgery を行うことで、予後の延長が期待できる。

Conversion surgery とは、診断時に技術的にも腫瘍学的にも切除不能もしくは境界切除可能と思われた腫瘍に対し、化学療法が奏効し根治切除を目指して行う外科的手術のことをいう。これは Stage IV 胃癌すべてに適応となるわけではなく、手術の効果が最大限に引き出せる集団の条件を検討する必要がある。われわれは、その条件として、①化学療法により一定の抗腫瘍効果が得られている。②化学療法による奏効が維持され増悪傾向がない。③ R0 手術が可能と判断できる。としている。

Stage IV 胃癌に対する conversion surgery の現状やその治療成績、今後の展望につき概説する。さらにわれわれが提唱した Stage IV 胃癌のカテゴリー分類につき紹介する。

進行胃癌に対する集学的治療戦略： Conversion Surgery の現状と展望

Key words

胃癌， Stage IV / conversion surgery / conversion therapy /
化学療法

助教

棚橋利行¹⁾
Toshiyuki TANAHASHI

教授

吉田和弘¹⁾
Kazuhiro YOSHIDA

特任教授

山口和也²⁾
Kazuya YAMAGUCHI

講師

田中善宏¹⁾
Yoshihiro TANAKA

特任准教授

松橋延壽³⁾
Nobuhisa MATSUHASHI

講師

高橋孝夫¹⁾
Takao TAKAHASHI

- 1) 岐阜大学大学院医学系研究科腫瘍制御学講座腫瘍外科学分野
- 2) 岐阜大学大学院医学系研究科低侵襲・がん集学的治療学講座
- 3) 岐阜大学大学院がん先端医療開発学講座